

特別研修

月例研究会 議事録 (1 月)

2008 年度第 7 回

報告題名 : 内モンゴルにおける農業経営と環境問題 —家畜排泄物の再利用技術を中心に—	
報告者 斯欽孟和	日時 1月22日 15時から17時
(所属分野) 経営情報学	場所 第8講義室
座長 柳瀬	議事録担当者 菅井
出席者 長谷部、木谷、両角、米倉、冬木、川島、石井、工藤、伊藤、澁谷、菅井、鹿嶋、小山田、張、池田、飯塚、デッフィ、村松、スチン、ソ、八木、柳瀬、神浦、野村、福田	
報告要旨 現在、世界各地で食の安全の確保、低コスト化、省力化と共に、地域の自然循環と環境保全に配慮した低投入型農業・畜産を形成することが求められている。そこで私は、内モンゴルに新たな堆肥生産技術を投入することで、将来の家畜糞尿処理問題の解決と環境保全農業の確立に関する研究を進めたい。 内モンゴル地域は、自然条件により土地が砂漠化しやすいため、農地に化学肥料を使用するより堆肥を使用するほうが適切である。そして、近年、中国国内の食料消費構造が変化したことにより内モンゴルでは酪農生産が増大しており、今後起こる可能性がある家畜糞尿問題を解決するため、採算の合う堆肥生産計画を考える。 発表内容： 1、内モンゴルの自然・社会経済条件 2、内モンゴルの農業と畜産業の動向 3、農家の所得動向 4、日中韓の食品消費構造の変化 5、堆肥の生産コストと化学肥料の価格の比較	
質疑・応答 柳瀬：中国での堆肥利用について、その生産と利用において生産者である中国の農民の方は、理解しているのか。 スチン：生産コストの問題や施設費が高いことから、農民は経験不足もあるが農地の生産性が上がらないので、堆肥を余り使わないで、簡単に使える化学肥料を使っている。 柳瀬：内モンゴルでは、生産技術、使用方法について普及はどうか。 スチン：堆肥は、内モンゴルでは、大規模な牧場に使われている。一番の大きな牧場にメタンガス発生施設を建設し、その牧場の農地に使われている。この大規模な牧場	

で使われている技術は、小農家に対し経営方式の変更となり、既存農家は経営的な経験不足や技術不足で対応出来ない。今後、一村一品の経営方式により、堆肥を作る必要があり、内モンゴル地域で使われる可能性がある。

石井：穀物、食肉、牛乳の生産動向からみると、これらの生産の拡大が短期間に急激に行われている。これは環境へかなり負荷がかかっていると思う。トウモロコシへの水の問題など具体的な環境に与える問題あるのか。

スチン：内モンゴルは乾燥地域で、化学肥料の使用は土壌の水分の蒸散作用を起こすが、堆肥は水分の一部を土壌に戻すなど土壌に優しく乾燥の問題を減らせる。内モンゴルの草地、畑地の 1/3～2/3 が砂漠化し湿地が少ないので、90年代半ばから川の両岸とか、村に近い湿地や自宅の隣に地下水を利用して、トウモロコシを作付けしている。トウモロコシに地下水を大量に使用したので、2005年から連続三年の干ばつで地下水が減少した。

渋谷：スライド中の日中韓の小麦一人当たりの消費量の動向のグラフでは、韓国の消費量が年毎に大きな変動が見られるがどうか。

スチン：このデータは、90年代から日韓が中国より小麦の一人当たりの消費量が減少していることを示している。

米倉：一村一品運動というのは、内モンゴルで村毎に異なった農産物なり工芸品なり工業製品なりを作っていくということなのか。

スチン：中国では一村一品運動は、村の上の一つの郷の中に牛なら牛肉、牛乳を作り、それを商品・消費する経営方式である。実は、地域特長により経済的利益に向かった経営方式である。その通り堆肥を使用することで農家に一部の利益を得る。そして、農地や草原の退化を防止することができると思う。

米倉：全ての郷で同じ物の生産を行うのでは、価格暴落するので、一郷毎に羊、カシミヤ、牛乳などそれぞれ違う物を作るのか。

スチン：中国では、2003年から欧米諸国のように肉牛、乳牛の牧場経営を行われるようになりましたが、内モンゴルでは設備の高いコストや経営技術が普及していないことが原因で敗因になっている。経営方式的にみれば村から郷まで、下から上へ関連して一連の経営方式を変えることになる。そして、ネットワークで内外の情報を集め、市場経済貿易を広げる。

米倉：糞尿処理等の普及する手段は何を使うのか。例えば普及員の仕組みを使うとか、具体的な普及手段を検討されているのか。誰が新しい農業技術を教えるのか。

スチン：内モンゴルでは、昔から堆肥作りを行っており、農地に投入してきた。しかし、近年化学肥料を投入している。農家の認識が低いとか経営経験が少ないこともあり、小農家の家計により、コストがかかる堆肥使う方向には向かっていない。

米倉：大学の川渡農場でスチンさんが堆肥を学んで、内モンゴルへ持ち帰って農家に普及

するには、どんな行政的手段によるのか。

スチン：現在の中国の一村一品の経営の方式から、その村の中で例えば野菜作りの畑へ隣村の牛乳の村から堆肥を使えばその中で技術が発展する可能性がある。具体的には、県(旗)、郷のサービスセンターの職員から村委員会の人達と農家に教えることで、上から下への一連の組織的サービスを送る手段で普及する。